

Notatki のたとき

中欧の「研究」と「生活」を
むすぶメモリアル

ゲスト：新野見卓也



リスト音楽院修了
ピアニスト

ゲスト：レーヴェース安奈



ハンガリー美術大学卒
アーティスト



司会：中井杏奈

お申し込みは
以下QRコードより



notatki348@gmail.com

芸術家たちが見る・暮らす・働くブダペスト ～中欧と日本をつなぐZINE『Notatki のたとき』販売&トーク・イベント～

2025年6月26日（木）18:30～20:30

@ Szerkesztőség (II ker. Keleti Károly utca 11/A)

中欧と日本を行き来しながらお仕事をするなかで、いつも、皆さんはどんなことを考えていますか？
本イベントではピアニストの新野見卓也さんとアーティストのレーヴェース安奈さんをゲストに迎え、
芸術家として生活するお二人のブダペストとのかかわりについてお話を聞きます（司会：中井杏奈）。

参加費 5,000HUF/人（ZINE1冊 + ソフトドリンク 込）

お1人につき1名まで +1,000HUF でお友達やご家族などを同伴いただけます。

現在、世界的に流行するZINE（ジン）という出版のかたち。
内容から印刷まで有志でつくりあげる、自主制作のあたたかみと多様なコンテンツが
日本でも大きな注目を集めています。



定価：1,500円（税抜）
販売：<https://notatki348.base.shop/>

「中欧」と呼ばれるヨーロッパのやや東寄りに位置する地域は、地理上の東西のはざまと歴史の
マルジナリアのなかに存在してきました。その領域は、たくさんの国境や言語の線によって時に
つながられ、時に分断されてきました。綴られることなく、空白に消えていった無数の出来事。
この地域に大なり小なりかかわる者が集まり、そんな「余白」に想いを馳せ、自由に手書きでメ
モを書き入れながら、つくりあげたのがZINE『Notatki のたとき』です。

目次

チェスワフ・ミウォシュへの投壘通信: 山本悠太郎
「オデーサ（オデッサ）の大階段」を見てみたい: 佐伯彩
トランシルヴァニアの瞳: 阪本佳郎
山椒魚の足音: 村瀬泰菜
ヨシップ・イェラチッチ像とその周辺: 宇野真佑子
バルトークのうそ: 新野見卓也
中くらの愛-あるいは書くことのスリングショット: 須藤輝彦
自分だけの家、または水街ダイアリー: 中井杏奈
作者について書かれないこと: 富重聡子
批判理論の理念と反時代性: 秋元由裕
プラハという迷路、飲んだビールは恋の味: 佐藤ひとみ
一七歳: 二井彬緒
近代日本と「東欧」の夢: 吉川弘晃

編集：佐藤ひとみ・中井杏奈・山本悠太郎
表紙・挿絵：レーヴェース安奈
印刷：ちょ古っ都印刷

この本の著者たちも寄稿しています！！



[左] チェコの作家ミラン・クンデラ研究者の須藤輝彦さん著作『たまたま、この世界に生まれて』

[右] ユダヤ人哲学者ハンナ・アーレントの研究者の二井彬緒さん著作『ハンナ・アーレントと共生の〈場所〉論』